

TSY MANINONA

JOURNAL SUR MADAGASCAR

木川 莉江 KIGAWA RIE

JICA青年海外協力隊として
マダガスカルのアンプイマナンブラで活動中
大塚製薬株式会社より現職参加
(2021-3次隊/コミュニティ開発)

活動計画の策定

任地での生活が始まり早くも半年が経ちました。最近では徐々に雨季が始まり、毎日夕方～深夜に1.2時間の激しい豪雨があります。気温も上がり屋台に果物のラインナップが増えてきました。

そして、いよいよ活動計画策定の時期です。活動先の市役所・配属先のDRAE（農業省）と相談しながら完成しました。残りの任期で、農村部での生活改善活動をメインに、衛生改善・日本文化紹介（できれば学校菜園、収入向上活動）に取り組めます。活動を継続させていく観点から、これまでは1人で行っていたことも色々な人に声をかけて協力を仰ぎながら巻き込むことを意識して頑張りたいです。本当に時間があっという間に過ぎていくので、1日1日を大切にやっています。

生活改善チームの発足

現在は以前実施していた日本語教室の生徒を中心に、任地で生活改善の活動を手伝ってくれるメンバーを募集しています。今のところ約20名。私が去った後もボランティアを続けてくれることを目標に、難しいですが良いチームを作りたいと思っています。

栄養改善のための料理教室

主に改良かまど・泥炭づくりを終えた村で、栄養改善のニーズがあるところに料理教室を始めています。マダガスカル農村部では、ごはんは沢山のお米と少量のおかず一品（農村では肉は高級品。家畜を自分で飼っている所以外は肉が調達できない家庭が多く、豆や葉っぱが中心。）のメニューが基本。そのため、たんぱく質やビタミンが足りてないことがほとんどです。

折角、新鮮でおいしい野菜が市場で買えるのに、という気持ちだったので、今回は野菜を使ったメニューのなかで選んでもらい、ピザとキッシュを作りました。美味しいし簡単～！と喜んでもらえました。

任地の家庭料理の彩りが少しずつ増えていきますように、、、！





“

tsikelikeli

マダガスカル語で「ちょっとずつ」という意味
生活改善活動で大切なこと
今あるもので少しずつ良くしていくという考え方

私自身、期限があるので
どうしても焦りが出てきてしまいますが焦っても一緒
tsikelikeli で精一杯頑張ります



FAMADIHANA À MADAGASCAR MUSIQUE

マダガスカルの伝統儀式 ファマディアナ

先祖を敬って、お墓のなかから布に包まれた遺体を運び出して新しい布で巻き直すマダガスカルの伝統行事、ファマディアナに参加しました。農村部の知り合いの子ども2人のフィマディアナ。

みんなでご飯を食べた後、お墓に移動し土を掘って遺体の掘り起こし。掘り出した木の小さい箱を見て、胸がきゅーっとなり、写真を撮るのも躊躇しましたが、「お土産にいっぱい写真撮って、日本に持って帰ってね。こういう時こそ冗談言って、沢山笑って欲しい。」と子どもたちのお父さんに言われ、マダガスカル人の強さを感じた瞬間でした。

昔話を沢山お話しして盛り上がっている人もいれば、酔っ払って踊り続ける人、久しぶりの再会に涙する人もいて、先祖や故人を大切に思い、それぞれの感情が溢れ出すマダガスカルらしい伝統行事でした。

音楽分科会 antsirabe

音楽好きな隊員で活動している音楽分科会。先輩隊員に調整していただき、MadajazzcarというJazzのコンサートに参加し、みんなでカントリーロードを演奏させていただきました。マダガスカル人の奏でる素敵なJazzも堪能でき本当に貴重な経験でした。そして、折角初めての町にきたので色々な所を散策したく、みんなでトゥクトゥクに乗っているとガタガタ道でまさかの横転。奇跡的に全員大きな怪我はなく一安心でしたが、一生忘れられない国内初旅行になりました。